

尊徳の報徳仕法・思想、生き方に共感し、学び・活動する市内の団体があります。どんなことを学び、どんな活動をしているのか、団体の代表にお話をうかがいました。

いまいち一円会



山岡 利夫 代表

全てのものに「徳」がある。こんな時代だからこそ、尊徳翁の教えが生きてくる

一円会は、平成8年に7名で発足しました。今市市生涯学習基本計画の中の一つとして、報徳思想をどのように「人づくり・まちづくり」に生かすか」がスタートでした。以来、22年が経過し、現在は17名の会員が尊徳の偉業などを学んでいます。主な活動は月1回の定例会で尊徳について「夜話」や「市史別編」を用

いて研修したり、遺跡案内板設置(小百用水2カ所、文化会館前、轟地区)や、由来の場所の草取り・清掃、十石坂の空缶拾いなどを行う他、各地区で講座を開催してきています。また、全国の報徳団体と交流し、会報も発行しています。

尊徳に学ぶべきことは、全ての物、人には徳がある。ダメな人間はいない、雑草にだって徳があると、徳を見出し、それらに感謝し、それに報いていくのが人の道だとする報徳思想の教えです。人は一人では生きられません。いろいろな徳が結びあつて社会ができるという「一円融合」と、小さなことを疎かにせず、コツコツと積み重ねていく「積小為大」は、今の時代に最も大切な尊徳の教えではないでしょうか。

今市報徳社



平野 博 社長

ここは尊徳翁の終焉の地。報徳の教えを伝えていくことが私たちの使命

明治30年、二宮神社が創建されたのを機に、尊徳の教訓を後世に伝えることを目的に、明治40年1月に今市報徳社が誕生しました。当時は月1回「芋こじ会」として会費と報徳金の積立を実施していましたが、途中、戦争の間は余儀なく休止していましたが、昭和39年に再開しました。現在は会員が28名(尊徳を尊敬する

人。商店会の会長や店主、議員など)です。二宮神社と報徳社は深い繋がりがあつたため、神社を守りながら活動することに重心を置いていきます。今市は尊徳終焉の地です。私たち市民は、尊徳の偉業を後世に伝えていく責任があるため、記念館のような中心的建物が必要と考えました。尊徳記念館建設を目指し、印刷

物を作成してPRするなど市民運動を展開し、平成29年に記念館が完成しました。現在も報徳社は、尊徳の偉業や教えなど話し合う「芋こじ会」や、1年に1度、尊徳にまつわる場所へ視察研修(小田原、相馬など)を実施しています。お互い助け合いながら生活していくこと。報徳思想は、今でも大切なことを私たちに教えています。

報徳の教え③「至誠」…人間として誠実であることは、生活をより豊かにする。報徳の教えの三大原理(勤労・分度・推譲)を進んで実践しようとする誠実さのこと。



【特集】
尊徳の心を伝える

報徳塾



報徳サミット時に相馬市の方と

「報徳精神」を念頭に
できることを継続

平成9年度に市が人材育成を目的として「市民大学報徳塾」を立ち上げ、その卒業生がまちづくりの役に立てばと、市民まちづくり団体「報徳塾」を平成12年に発足させました。現在メンバーは、農林業・建築建設関係、会社員などの異業種20名です。

活動は市の活性化を願う「愛の一言メッセージ」を募集して行灯に書き市街地のアーケードに設置したり、大谷川にこいのぼりを上げたりしました。また、日光には報徳仕法が実施された際、当時の相馬藩から多大な支援を受けたという歴史があり、大震災後は、相馬市に義援金を届けたり、慰霊祭に参加するなど交流を続けています。これからも推奨の精神



報徳サミットで設置した行灯

を大切に活動を続けていきたいと思えます。

今市史談会



木村 浩 会長

尊徳翁をはじめ、偉大な先人の
功績を学ぶ

今市史談会は、平成3年に当時の旧今市市文化財審議委員を中心に発足しました（現在の会員は68名）。活動は、日光歴史講座の講師の派遣をはじめ、年に1回の視察、年3回の歴史講演、毎月の会報発行をしています。また、轟小学校や清滝小学校などで二宮尊徳についての講話も行っていきます。報徳の教えに「勤労」

があります。勤労とは、嫌々働くのではなく、自ら気持ちよく働く。働くことに喜びを持つ。とても重要なことだと思います。会では、尊徳の他にも日光市で偉業を成し遂げた人や活躍した人を発掘し、スポットを当てて研究・発表しています。歴史の好きな方、一緒に活動しませんか？ 随時会員を募集しています（※）。



轟小学校の児童に二宮堀を案内

報徳の教え④「勤労」…働くことにより、知恵を磨き、自己の向上を図ることができる。また、人は互いに個性や特性を生かしつつ、世のため人のために働くならば、生産物を産み増し、社会の富豊と幸福をもたらす。